

Ⅱ 植 生 概 観

茨城県鹿島地区は、古砂丘上に位置している。現在古砂丘地帯の造成、鹿島灘の埋め立てなどにより鹿島港や鹿島工業地帯が建設され、昔の面影は常陸利根川河口付近と、鹿島北部の台地地帯に残されているにすぎない。鹿島地区では鹿島神宮、息栖神社、降野神社などの神社社叢林や、明石氏宅のような屋敷林の形で自然に近い常緑広葉樹林が残されている。これらはヤブコウジースダジイ群集やイノデータブ群集にまとめられる (Phot. 1)。



Phot. 1 屋敷林に残されたイノデータブ群集 (鹿島町明石)。

Als Hofwald noch erhaltenes Polysticho-Machiletum thunbergii.
(Akashi in Kashima)

鹿島港周辺は埋立地が画一的に広げられ、飛砂が止まって塩分の含有量のほとんどない立地ではチガヤヤマアワ群落が発達している。砂地ではコマツヨイグサーギョウギンバ群落などの先駆植生、あるいは排水の悪い、乾湿の差のある砂地にイヌビエオオクサキビ群落の先駆植物群落が斑紋状にみられる。

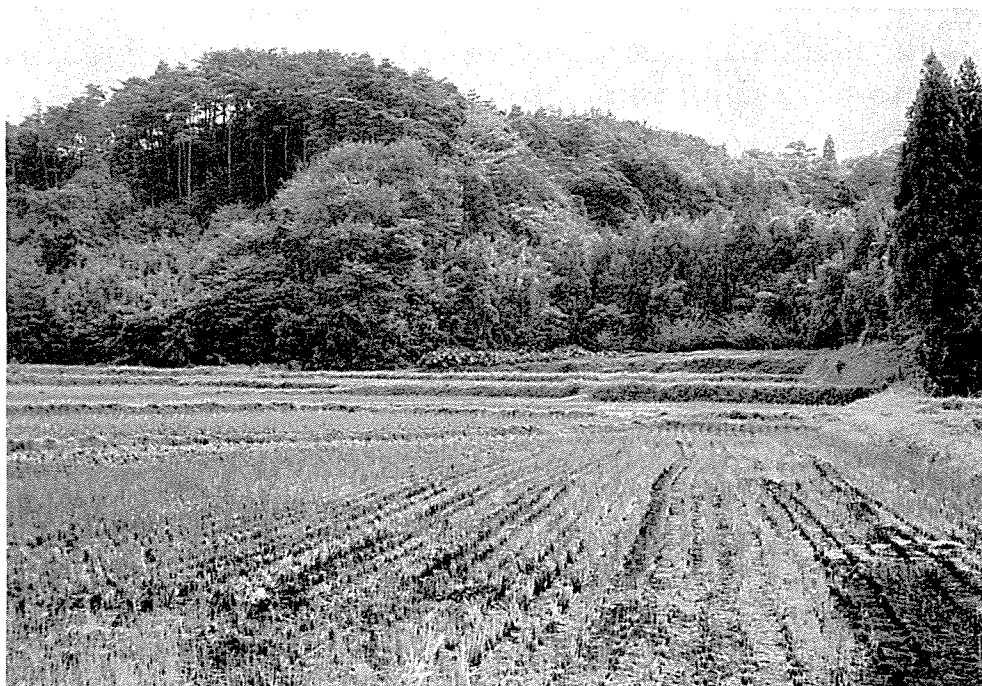
鹿島南部の波崎町にかけた古砂丘地帯では1 m程度の素堀が行なわれ水田や畑が作られている。堀りとられた砂や土は周辺に堆積され、境界林としてクロマツが植林されている。

鹿島南部はセンリョウの栽培が多く、ヨシズで囲まれた栽培地が目立つ。鹿島灘沿岸の砂丘地帯の多くは造成され、海際には堤防が築かれている。堤防より東側の残された海岸砂丘には砂丘植生を構成しているハマグルマーコウボウムギ群集、コウボウシバ群落が発達している。堤防西側はクロマツがヨシズ囲いの中に植栽されている。

鹿島北部は北浦、鹿島灘、霞ヶ浦にはさまれ洪積台地が帯状に続いている。洪積台地肩部にはヤブコウジースダジイ群集の残存林分が、人為的影響が加わっているが、神社林、屋敷林の形で残されている。鹿島灘に面した台地斜面にはクロマツ植林が多く、屋敷周辺にモウソウチクやマダケが植栽されている。北浦、霞ヶ浦に面した斜面にはスギ植林地が多くみられる。また小面積でコナラ二次林が斜面に点在してみられる。

北浦霞ヶ浦周辺の沖積低地は水田耕作が行なわれ、広い稲作地帯が続いている。

常陸利根川を境界とする南側は千葉県に属しているが、千葉県香取郡は鹿島北部に類似した地形がつづき、細長く入り組んだ台地が広がっている。台地斜面にはクロマツ植林、細い凹状地にスギ植林が行なわれ、台地の縁をとりかこんでいる。台地肩部や細長い丘陵地ではスダジイ萌芽林が部分的に樹林を形成している (Phot. 2)。香取郡東庄町、山田町、干潟町にはため池が多



Phot. 2 沖積地は水田耕作地に利用され、谷状地にスギ植林、尾根部にクロマツ植林が行なわれている (千葉県東庄町)。

Die alluviale Fläche benutzt als Reisfeld, und auf dem Hügel bedeckt sich mit der gepflanzten *Pinus thunbergii* und auf den talartigen Stellen mit der *Cryptomeria japonica*. (Tohnosho in der Präfektur Chiba)

い。1978年の夏季の渇水で水が干上がった池も多く、アオテンツキ群集が干上がったあとを埋めている。満水の池にはガマ群落やヨシ群落が生育しているところもみられる。

鹿島一帯はかつて水郷地帯と呼ばれ舟による交通が多かったが、常陸利根川、北浦、霞ヶ浦その他鹿島地区を流れる小河川にいたるまで、水深1 m以下の立地にはガマ群落、ウキヤガラマコモ群集、ヨシ群落の水生植物とともに、ホザキノフサモ、ササバモ、コウガイモなど富養湖に生育する水中植物群落が発達している。

鹿島北部の水田地帯にはハス田が広くみられ、ハス田特有のミズアオイ群落がみられる。

台地上は多く耕作畑地に利用されており、スギ植林、クロマツ植林がまれにみられる。

屋敷林に残されているイノダブ群集は断片的林分も含め常陸利根川の沖積地にとくに多い。